

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」をお迎えする

南無阿弥陀仏、人と生まれた意味

■「生まれた意味」

我われが「人と生まれた意味」についてたずねる時、それを確かめる一つの手がかりとして、法蔵菩薩が自らの生まれた意義について探究する法蔵の求道物語があると思われる。その中で今回は、法蔵菩薩が世自在王仏の巍々たる光顔に出会った、その出会いに注目したい。その出会いは法蔵に世自在王仏の如き仏になりたいとの大菩提心を発(おこ)させた。法蔵は、まさに人生の師ともいべき世自在王仏に、自らの生まれた意義をたずね発見することができるかと直感した。それゆえ世自在王仏と斉(ひと)しき仏になりたいと願ったのではなからうか。その自ら仏と成るとの自利を求める心は、十方一切の苦惱衆生を度脱させねばならないという利他心へと展開する。その願作仏と度衆生の自利利他の心が法蔵の大菩提心の内容である。そして法蔵はこの大菩提心の実現のためにこの身を多くの苦しみの中に置くことになっても悔いることはない、自らの喜びとしたのである。

■「本願をいのちとする」

この大菩提心実現の具体的手段として念仏の修行が選ばれた。ここに本願がある。具体的実現の手段を得たことで菩提心が具体的な実現力を持った本願となった。この本願を3つで表すならば、自利である必至無上道の願いと利他である普濟諸貧窮の願いと、その具体的実現のための名声超十方の願いとなる。この願いは世を超えて、そして世を超えて名によって、はたらく願いである。この願いに法蔵は仏となるべき全生命を賭ける。本願に全生命を賭けるということは、いわば本願が自らの存在そのものとな

ったということであろう。つまり自らが生まれた意義を世自在王仏に直感し、大菩提心に見出し、ついにはその菩提心は、具体的はたらきとしての本願となったわけである。法蔵の生まれた意義は、本願に結実していくのである。

■「南無阿弥陀仏、人と生まれて」

この本願の端緒であるところの世自在王仏との出会いにおこる大菩提心を、本願の具体的実現である念仏の上に、「願往生の信心」として頂いていくのが我らの浄土真宗である。この信心は我らの必定菩提の因となる。信心が衆生の必定菩提の因となるということは、阿弥陀がすべての衆生をその本願力でもって必ず仏とするという、そのあらわれである。この信心をいただくとき、我われに問題となってくるのは「人と生まれた」ということとなる。以下そのことをたずねる。信心を頂くとき、阿弥陀の功德が念仏者の身にあふれるという。この功德のあふれる姿とは如何なるものであろうか。我われは、念仏者の如来功德あふれる姿を、阿闍世王の釈迦牟尼仏との出会いにおける無根の信に見出さねばならない。阿闍世は父王の殺害という地獄業とその報いに恐れおののいていた。しかし釈尊との出会いにおいて、阿闍世一人を見つめて護念する無条件の慈悲に出会った。そして阿闍世は、如来の慈悲をも知らず、仏に会いおうともしていなかった自らの罪をおおいに慚愧して、たとえ地獄業によって地獄の報いを受けようとも如来の護念は、さまたげのないことを知った。また地獄にも如来の慈悲を伝えるべき衆生のいることを想い、地獄の業報としての我が身を、大悲への信心とともに生きる、その歩みを自らの喜びとし

たのである。

■「信に生きる」

我らは人と生まれた。ここに人の業がある。人の業の根本は、さるべき業縁があれば如何なる振る舞いもなしてしまうという遇縁にある。そしてその人と生まれたとき、そこには我が力の及ばざるものへの恐怖心と劣等感が起こる。それが無いものはおおよそない。その恐怖心と劣等感は、やがて罪福という社会を生みだす。その罪福という人間業によって生みだされる最たるものに戦争・差別・貧困という問題があるであろう。その社会にあって我われは地獄業をもち、ついにはその報いから免れることもできず、地獄苦に沈む。それが凡夫というものである。その凡夫に信心として如来の慈悲が届く。その信心に如来と出会ったが如き功德があふれているのである。我われは知らねばならないのではなからうか。この忌むべきような人間社会にあって大悲する如来のあることを。またそのことをともに知るべき同朋のあることを。

高山地区教化研究所研究員

高山1組稱讚寺住職 伊達俊幸



3月25日から慶讃法要が始まりました

3月25日から本山では、宗祖親鸞聖人御誕生850年立教開宗800年の慶讃法要が始まりました。この法要を荘厳するかの如く阿弥陀堂南側の荘川桜が鮮やかに咲き満開を迎えました。本山植樹から6回目の春を迎えましたが、今年も飛騨真宗の念仏の歴史をつなぐ花が咲き誇っています。



★センター・別院からのお知らせ★

帰敬式法座反省会・第4回企画会議報告

3月2日、今年度実施されている本山指定「帰敬式法座」の反省会と、第4回企画会議が開催された。

帰敬式法座の反省会では、法座スタッフに出席いただき、別院での実施状況及び各組での実施状況の報告がなされ、実施しての感想として、帰敬式推進についての取り組みの重要性が再確認され、次年度以降も、高山地区にあった形で帰敬式法座を実施していくべきであるとの意見が出された。

また企画会議においては、帰敬式法座の反省会を踏まえ、センターとして帰敬式法座を実施していくことが確認された。そのことも踏まえ、センター第二期においては「帰敬式推進室」を新たに設置し、別院での帰敬式の執行を軸として、帰敬式の推進に取り組んでいくことが確認された。

なお、第二期に向けた、センター組織についての種々議論を踏まえ、既存の4部会はそのまま継続することが確認された。今後、センター長により4部会幹事が指名され、第二期のセンター委員の選出が行われる。

3月3日嘉念坊善俊上人祥月命日 顕彰会の今後を考える

去る3月3日、嘉念坊善俊上人の祥月命日に、顕彰会主催による御法要と総会が開かれた。

総会後には、『ご回壇教化』DVDの上映が行われ、改めて飛騨御坊の源流を学び直した。ご坊報恩講とご回壇教化の推進がご坊の命脈であり顕彰会の活動目的であると確認した。上人なくしてご回壇教化はあり得ず、ご回壇教化によって上人の名が今日まで相続されている。各寺院宗族・門徒も、何卒そのことを再確認してもらうことを願う。〈輪番〉

2022年度聖教学習会を終えて

3/7をもって、聖教学習会(講師:マイケル・コンウェイ大谷大学准教授、テーマ:『安楽集』に学ぶ)は、足かけ3年通算7回で終了した。先生には、コロナウイルスの影響が続くこの期間に高山までお運びいただき、道禪禅師の時機による教相判釈をとおして、末法の凡夫においては、本願に誓われている念仏こそが唯一よるべき道であるにご指導いただいた。深く感謝申し上げます。

■問題となる宗教性—善知識だのみ・秘事法門

しかし、人の世においては、仏法僧ということがきちんと確かめられなくて、同じ大きさで同じ高さで出会えなくなるような宗教性が実は問題となります。最後に、そのことに触れてまいりたいと思います。それは、仏法僧という形が崩れるということで露わになります。

<善知識だのみ>

またあるひとのことにいわく「たとい弥陀に帰命すというとも、善知識なくは、いたずらごとなり。このゆえに、われらにおいては善知識ばかりをたのむべし」と云々 これも、うつくしく当流の信心をえざるひとときこえたり。(中略)されば善知識というは、阿弥陀仏に帰命せよといえるつかいなり。宿善開発して、善知識にあわずは往生かなうべからざるなり。しかれども、帰するところの弥陀をすてて、ただ善知識ばかりを本とすべきこと、おおきなるあやまりなりとこころうべきものなり。

(『御文』二帖目十一通 聖典790頁)

善知識というのは法を説く人ですから仏です。仏をたのみにし、仏に寄りかかり、「あの人についていけば」「あの人にもたれかかってあの人に依存すれば救われる」という形で、共に教え(法)を確かめ合うということが消えてしまう。そうなると、この僧伽は、その仏の位置に立った善知識に依存する場所となります。現在の言葉でいえばカリスマ信仰です。

このカリスマというのは、ギリシャ語が元で、神の啓示、神の言葉を聞けるという人のことです。神の言葉を伝える人を信仰し、そして神の言葉以外にも、その人の言うことを絶対なものとして聞いてその人を熱狂的に信仰し、神の教えはどこかへ行ってしまおうということをカリスマ信仰といいます。マックス・ウェーバーという人が、人間がつくる組織というものは、伝統的支配と合理的支配、そしてカリスマ支配だとして、社会の中での人間の支配構造を3つの形に分け、カリスマ支配ということを示したのが本です。

仏の教えを説く人を頼みその人に依存し、自らが一緒に教えを確かめるということが抜けてしまうと、その僧伽はその善知識のファンクラブに

なって、善知識というものに依存してしまう。そういう一人の絶対者とその他大勢の精神的に隷属する者という構造に陥る恐れがあります。だからこそ、仏と法と僧伽ということがきちんと確かめられないと、仏教に限らず、宗教というものは大きく歪んでしまう。そのことを真宗では「善知識だのみ」ということで問題にしてきました。

本願の教えを生きておられる「よきひと」(先生)によって、私たちもまた阿弥陀仏の教えに出会うのですが、先生が救ってくださると錯覚し、その先生(教祖)に依存してしまうのは本来の在り方ではありません。

また、先生に救われるのではなく阿弥陀仏に救われるのだが、それには、この先生に依らなければだめなのだと、この先生だけが唯一阿弥陀仏の教えを語れるのだと決めつけ、他を否定することも同じ問題を孕んでいます。

高山1組 不遠寺住職
企画会議副座長 四衢 亮



※文字数の関係で、来月号が最終回となります。

『高山市民時報』ミニ法話『響』4月

三島 多聞氏 (高山別院輪番)

【高山市民時報でのミニ法話終了のお知らせ】

高山市民時報でのミニ法話の連載は4月3日掲載分で終了いたします。

以降の連載につきましては飛騨御坊ホームページにて継続いたしますので、どうぞ引き続きご覧ください。

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。



WEB一口法話はこちら

第41回 真宗公開講座 共通テーマ:「立教開宗」とは

期日:4月9日(日) 午後1時30分～ 今年度第6回目となります。

講師:馬川 透師(高岡教区真教寺) 会費:無料

講題:正信偈をいただく 私の立教開宗 主催:高山1組 真宗の会

※ 寺族の方々の参加が少ないという声があります。是非ともご参加ください。

パブリックスペースに自動販売機を設置

御坊会館入り口横にパブリックスペースがあり、観光客や会議出席者の休憩場所となっていますが、このたびパブリックスペースに隣接して、自動販売機が設置されました。多くの方に活用いただき、少しでも別院の収益となればと願っております。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年4月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	土		教団参 教区慶讃法要団体参拝 組団参 清見組・朝日高根組	本山
2	日		組団参 高山2組	本山
3	月	13:00	別 三日のご坊 法話:三島大遵氏(真蓮寺住職)	本堂
4	火	9:45	教 得度事前研修会(高山地区)	研修室
5	水	7:00	別 半日華	
6	木			
7	金			
8	土	19:00	組 高山1組親鸞教室①	研修室
9	日	13:30	組 真宗公開講座(講師:馬川 透師)	本堂
10	月			
11	火	13:00	別 大谷婦人会追弔会・総会 法話:三島多聞氏(輪番) 教 全国坊守会研修(本山)	本堂 本山
12	水	13:30	組 高山2組坊守会	研修室
13	木	7:00 7:00 14:00	別 前往上人ご命日 別 半日華 組 高山2組組会	本堂 研修室
14	金			
15	土		組団参 益田組・荘白川組	
16	日			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
17	月			
18	火			
19	水			
20	木			
21	金		七 帰敬式法座受講者奉仕団(～23日)	本山
22	土	19:00	組 高山1組親鸞教室②	研修室
23	日			
24	月	19:00	教 教化研究所	研修室
25	火			
26	水	7:00	別 半日華	
27	木	13:00 15:30	別 親鸞聖人お逮夜 組 高山1組組会	本堂 研修室
28	金	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:三島見らん氏(西念寺住職) 組団参 高山1組・吉城組	本堂 本山
29	土			
30	日			

2023年5月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
6	土	19:00	組 高山1組親鸞教室③	12	金	13:30	組 高山2組組会
9	火	13:00	教 第3回高山支部坊守研修会				
11	木	13:30	組 高山2組坊守会学習会③				